

■田中丘隅(休愚)
たなかきゅうぐ
松平信綱没・1662＝

民政家。川崎宿の疲弊を救い、「民間省要」で幕府徴用、治水通船で地域振興し、支配勘定格に至った。

武蔵国多摩郡平沢村で、絹商も兼ねる農家窪島家の次男に生まれる。幼名は喜吉。

酒井忠清大老1666＝ 4歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1671＝ 9歳：

絹物の行商をして見聞を広めるうち、

東海道川崎宿の本陣田中兵庫に、才能と人柄を見込まれて、

徳川綱吉將軍1680＝18歳：

好色一代男・1682＝20歳： その養子となる。

堀田正俊暗殺1684＝22歳：

日本永代蔵・1688＝26歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1689＝27歳：

生類憐令頂点1695＝33歳：

吉保大老格・1698＝36歳：

団十郎刺殺・1704＝42歳： 養父の本陣職を継ぐ。

富士宝永噴火1707＝45歳： *丘隅の力量を見抜いた代官の英断で、名主、問屋役を兼帯し、疲弊していた川崎宿の再興に着手、困窮を救うには多摩川渡し舟の営業権取得しかないと陳情を開始。仮免許得て、事業を軌道に乗せ、
徳川綱吉没・1709＝47歳： ついに正式許可になり、それまでの収益が下付され、補助金も出るようになった。

冥途の飛脚・1711＝49歳： *事業が信頼を得て将来も安定するように、法度を定め高札を出すと、本陣職を息子に譲って一大発心、江戸に遊学し、荻生徂徠入門、経世学を学び、成島道筑とも親交を結ぶ。

さらに、サービス業を振興し地元にお金が落ちるようするなどして、川崎宿の復興と繁栄をもたらす。

徳川吉宗將軍1716＝54歳： 八代將軍吉宗が紀州から江戸入りする途次、川崎本陣に三泊したが、その時多くの人たちへ食事の供給で才覚を発揮して感服され、

御蔭参流行・1718＝56歳： 吉宗の母の江戸入りにも手腕を発揮した。

・ ・ ・ ・ ・ 1719＝57歳： 自伝の形を借りて子孫への教戒書「走庭記」を著すと、

1720＝58歳： 四国巡礼の旅に出、途中で半生を振り返って、民政に対する詳細な具体策を著述し始め、

小石川薬園・1721＝59歳： 字数35万字に及ぶ大著「民間省要」3巻77項目を脱稿し、

・ ・ ・ ・ ・ 1722＝60歳： *徂徠門下の友成島道筑を通じ献上した。これを読んだ吉宗が感嘆し、

火の見櫓制・1723＝61歳： 大岡忠相からの農政水利についての諮問に治民策を著して応えとともに、川方御普請御用を命ぜられ、著名な紀州流治水の名手井沢為永の配下となって、荒川・多摩川の治水、二ヶ領用水・大丸用水の改修工事を行い、幕命によって、富士山の火山灰による土壌から氾濫を繰り返す相模国酒匂川を視察、

・ ・ ・ ・ ・ 1725＝63歳： 大岡忠相から、町奉行配下で、酒匂川の大口堤締切普請を行うよう命じられ、

懷徳堂公認・1726＝64歳： 地元業者を参加させて、酒匂川の補修を行い、新しい堤を築造、文命堤と名付ける。

以後、崩壊することがなくなったことを評価されて、

梅岩心学始・1729＝67歳： 三十人扶持、*支配勘定格となり武蔵国多摩・埼玉両郡3万石を支配したが、直後に没した。